

Keynote Lecture 「Modelling of soils/Geosynthetics interaction」

熊本大学 大谷 順

この基調講演は、会議の最終日である 9 月 26 日の朝 9 時より開催され、講演者はフランスの Dr.Villard と日本から小竹氏（東洋建設）と私の 3 名である。正式なタイトルは上記のようになっているが、実際は、”Modelling of reinforced soil in finite element analysis”とし、3 人で約 50 分の講演を行った。その内容および構成については以下の図に示す通りである。

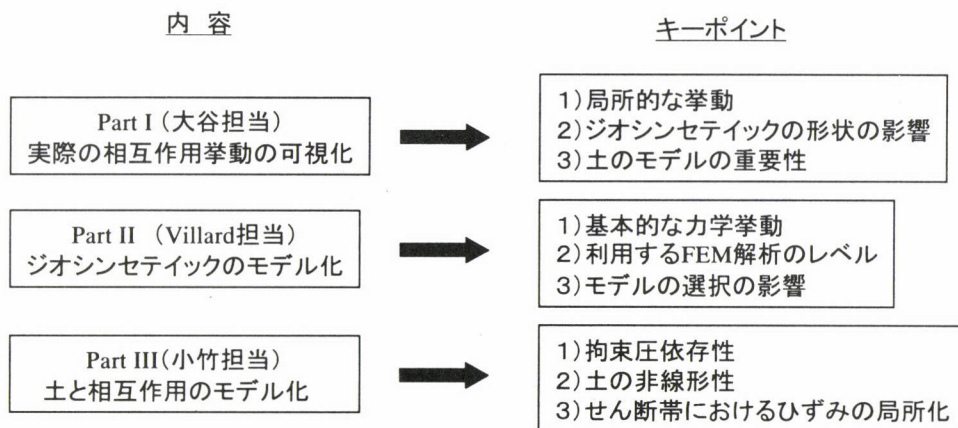


図-1 講演内容の概要

最終的な結論については、それぞれのパートについて以下のような内容でまとめた。

Part I:

- 1) 実際の相互作用挙動は複雑かつ局所的である
- 2) 相互作用挙動は、補強材や施工法で異なる
- 3) 土が主役的な役割を演じる

Part II:

- 1) モデルにおける仮定が結果に大きく影響する
- 2) FEM コードは注意して使用するべき
- 3) 適切は有限要素タイプを選定する必要あり

Part III:

- 1) 土のモデル化における拘束圧の影響は大
- 2) 土の残留挙動までが重要である
- 3) 局所的な挙動まで追えるモデル化が必要

最後は、有限要素解析における実現象追求の重要性と、土、ジオシンセティック、および相互採用それぞれにおける適切なモデル選択の必要性について言及することでこの講演を終えた。

この講演を実施するにあたり、その準備段階から複数で講演する難しさを痛感していた。しかし、講演終了後に多くの方からその労をねぎらっていただいたこととで、ある程度の役割は果たせたのかなと思ったのは、多分、Dr.Villard も小竹氏も同じではなかったかと思う。

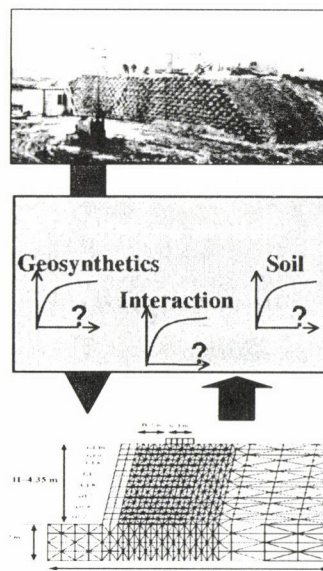


図-2 講演で使用したスライドの一例